2017年12月期
決算概況

テラ株式会社

tella

JASDAQ

証券コード：2191

INDEX

Ⅰ．2017年12月期TOPICS

Ⅱ．2017年12月期決算概況

Ⅲ．経営課題と今後の展望
- 経営課題
- 解決へ向けた戦略

Ⅳ．補足資料

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2017年12月期TOPICS

TOPICS １．JASDAQ市場で上場維持の見込み

TOPICS ２．当面の事業資金の確保（約１５億円）

TOPICS ３．第Ⅰ相試験へ治験製品の提供

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2017年12月期TOPICS

TOPICS１：JASDAQ市場で上場維持の見込み

（単位：百万円）

	2017年 通期
営業活動によるキャッシュ・フロー	＋47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△
財務活動によるキャッシュ・フロー	＋

→ **上場廃止基準のクリア(見込み)**

達成の要因

- 一部契約医療機関に対する延滞債権の全額回収
- 経営構造改革の成果として、固定費を中心として大幅な削減

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

TOPICS２．当面の事業資金の確保

二段階のエクイティ・ファイナンスで14億73百万円を調達
⇒当面の事業（開発）資金を確保

（１）第17回新株予約権の行使による調達：491百万円

モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社に割り当てた30,000個の新株予約権のうち、10,000個が行使され、4億91百万円を調達完了
（※5月26日付で、残りの20,000個を取得及び消却）

（２）ひふみ投信マザーファンド：982百万円

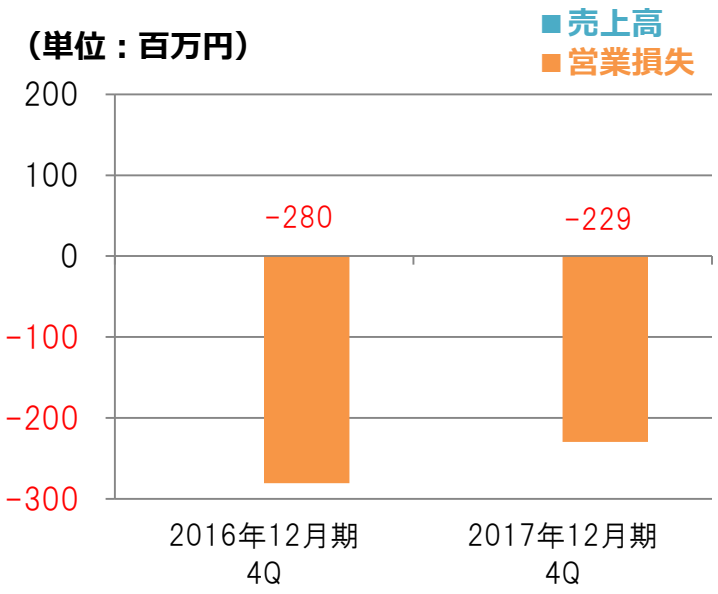
レオス・キャピタルワークス株式会社（代表取締役社長 藤野 英人）が運用するひふみ投信マザーファンドに対して、第三者割当増資による新株式発行し、9億82百万円を調達完了

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

TOPICS３．第Ⅰ相試験へ治験製品の提供

連結子会社テラファーマにて、治験製品の製造・提供を開始
治験は順調に進捗

医薬品事業



開発費用

△280百万円
⇒△229百万円

治験の開発コストを適切に管理

公立大学法人 和歌山県立医科大学病院において2017年3月より膵臓がんを対象とした樹状細胞ワクチンの医師主導治験がスタート。2017年5月に治験登録患者に対する初回投与が実施され、治験の第Ⅰ相（安全性試験）は順調に進捗。

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

INDEX

Ⅰ．2017年12月期TOPICS

Ⅱ．2017年12月期決算概況

Ⅲ．経営課題と今後の展望
・経営課題
・解決へ向けた戦略

Ⅳ．補足資料

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2017年12月期　損益概要（連結）

（単位：百万円）

	2016年12月期（連結）	2017年12月期（連結）
売上高	1,801	957
営業損失	△621	△245
経常損失	△667	△261
親会社株主に帰属する当期純損失	△918	△643

細胞医療事業
症例数減少

医療支援事業
受注販売の減少
連結子会社BMSの売却

医薬品事業
減損損失
403百万円の計上

売上高
957百万円（前年同期比844百万円減、46.9%減）
- 症例数の減少
- 細胞培養関連装置の受注販売の減少
- 当事業を行っていた連結子会社バイオメディカ・ソリューション㈱(BMS)を連結の範囲から除外したことによる減少

営業損失
△245百万円（前年同期は621百万円の損失）
- 構造改革による費用削減、延滞債権の回収による貸倒引当金戻入益の計上(＋の影響)
- 細胞培養関連装置の受注販売の減少及びBMSの連結の範囲から除外(△の影響)
- 再生医療等製品としての樹状細胞ワクチンの承認取得を目指した開発活動(△の影響)

親会社株主に帰属する当期純損失
△643百万円（前年同期は918百万円の損失）
- 治験用設備の減損損失403百万円の計上

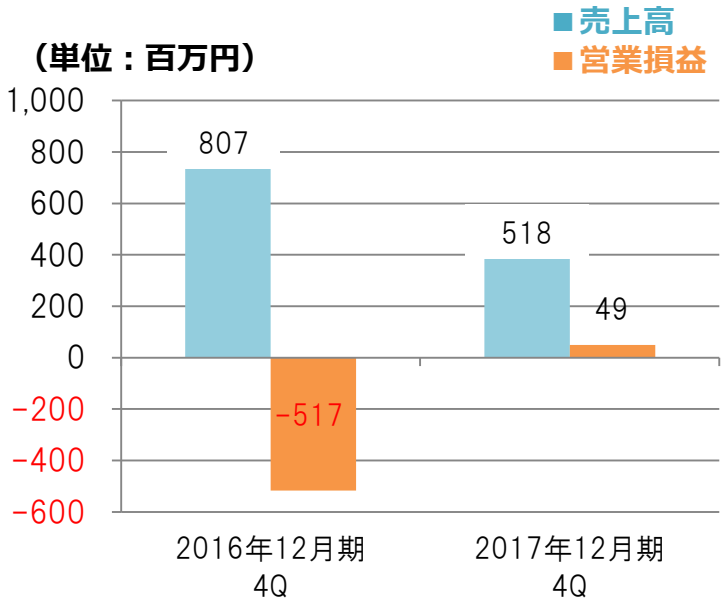
Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2017年12月期　セグメント損益

細胞医療事業：収益事業セグメントの黒字体質に転換

2012年12月期以来、5期ぶりの黒字化

細胞医療事業



売上高

807百万円
⇒518百万円

← 症例数の減少

営業利益

△517百万円
⇒ 49百万円

← 構造改革による固定費圧縮
延滞債権の回収による戻入益

症例数が前年同期と比べ減少したことにより
売上高は518百万円
（前年同期比288百万円減、35.8%減）
営業利益は49百万円
（前年同期は517百万円の損失）

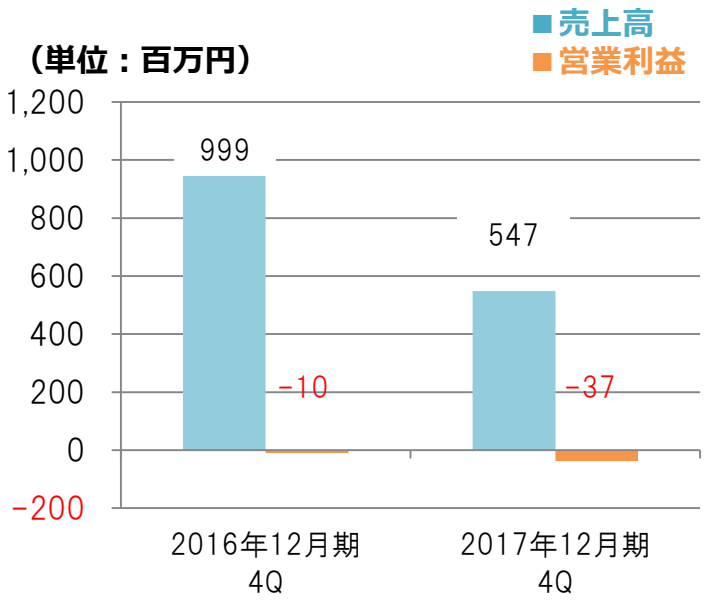
Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2017年12月期　セグメント損益

医療支援事業：連結子会社の売却

連結子会社バイオメディカ・ソリューションの売却により売上高及び営業利益が減少

医療支援事業



売上高

999百万円
⇒547百万円

← 受注販売減少
連結子会社の売却

営業利益

△10百万円
⇒ △37百万円

← 連結子会社の売却

主に、細胞培養関連装置の受注販売の減少及び連結子会社を売却したことにより、
売上高は547百万円
（前年同期比451百万円減、45.2%減）
営業損失は37百万円
（前年同期10百万円の損失）

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

貸借対照表（連結）

自己資本比率が33.5% → 71.4% に改善

（単位：百万円）

	2016年12月期（連結）	2017年12月期（連結）
流動資産	1,262	1,622
固定資産	275	257
総資産	1,537	1,879
流動負債	647	325
固定負債	281	210
純資産	609	1,343
負債純資産合計	1,537	1,879

主な増減の内訳

（単位：百万円）

＜流動資産・固定資産＞

現金及び預金の増加	＋808
受取手形及び売掛金の減少	△333
前払費用の減少	△132

＜流動負債・固定負債＞

支払手形及び買掛金の減少	△ 87
借入金の返済による減少	△323

＜純資産＞

親会社株主に帰属する当期純損失	△643
資本金及び資本剰余金の増加	＋1,469

第三者割当増資により現金及び預金、純資産が大幅増加

Copyright 2018 tella Inc., All Rights Reserved

キャッシュフロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2016年12月期（連結）	2017年12月期（連結）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△565	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	374	△371
財務活動によるキャッシュ・フロー	1	1,133
現金及び現金同等物の四半期末残高	709	1,518

主な増減の内訳

（単位：百万円）

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

税金等調整前当期純損失	△633
貸倒引当金の減少	△62
減損損失	+403
売上債権の減少	+273
前払費用の減少	+129

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

薬事承認に向けた開発のための設備投資	△134
連結の範囲の変更を伴う連結子会社の株式売却による支出	△230

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

新株予約権の行使による資金調達	+483
株式の発行による資金調達	+975
借入金の返済	△323

売上債権の減少に一部医療機関に対する延滞債権の全額回収を含む

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2018年12月期 見通し

（単位：百万円）

	2017年12月期（実績）	2018年12月期（見通し）	増減
売上高	957	510	△447
営業損失	△245	△1,060	△814
経常損失	△261	△1,115	△853
親会社株主に帰属する当期純損失	△643	△1,120	△476
1株当たり当期純損失	△40.81	△71.01	

細胞医療事業
症例数減少

医療支援事業
連結子会社の売却

細胞医療事業
成長ステージへ向けた準備費用

医薬品事業
治験製品の供給体制強化のための研究開発費用

売上高
症例数の減少による売上高の減少（2017年度比）
連結子会社の売却による売上高の減少（2017年度比）

利益
成長ステージに向けた準備費用の計上(△の影響)
治験製品の供給体制の強化のための研究開発費用の計上(△の影響)

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

INDEX

Ⅰ．2017年12月期TOPICS

Ⅱ．2017年12月期決算概況

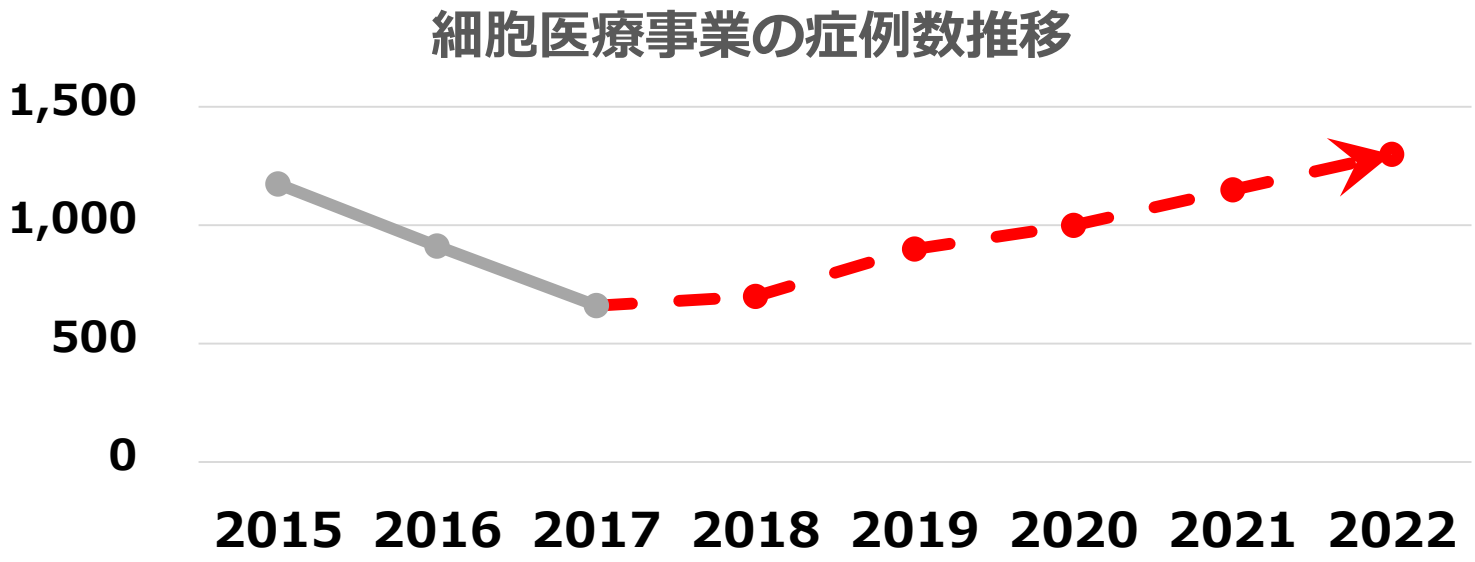
Ⅲ．経営課題と今後の展望
・経営課題
・解決へ向けた戦略

Ⅳ．補足資料

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2018年12月期の経営課題

1．細胞医療事業での症例数の回復



2．薬事承認に向けた活動のための資金の必要性

治験製品の製造を含む薬事承認に向けた活動のためには
<u>資金約38億円の獲得が必須</u>（38億－15億＝23億円追加）

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

経営課題の解決へ向けた2018年の戦略

1．細胞加工受託サービスの開始

（1）特定細胞加工物の製造許可の取得

⇒　細胞加工が実施できる施設を整備し、厚生労働大臣に許可申請を行う計画です

（2）新規契約医療機関の開拓

⇒　細胞培養加工施設（CPC）を保有しない医療機関の参入障壁を下げることで、新規契約医療機関を獲得し細胞医療事業における症例数回復を目指します

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

2018年の経営課題の解決へむけた戦略

2．薬事承認に向けた活動のための資金獲得・コスト管理

（1）企業とのアライアンスの締結による追加の資金獲得

⇒　継続して開発協力金又は資本獲得を目指してまいります

（2）治験のための開発費用の適正化

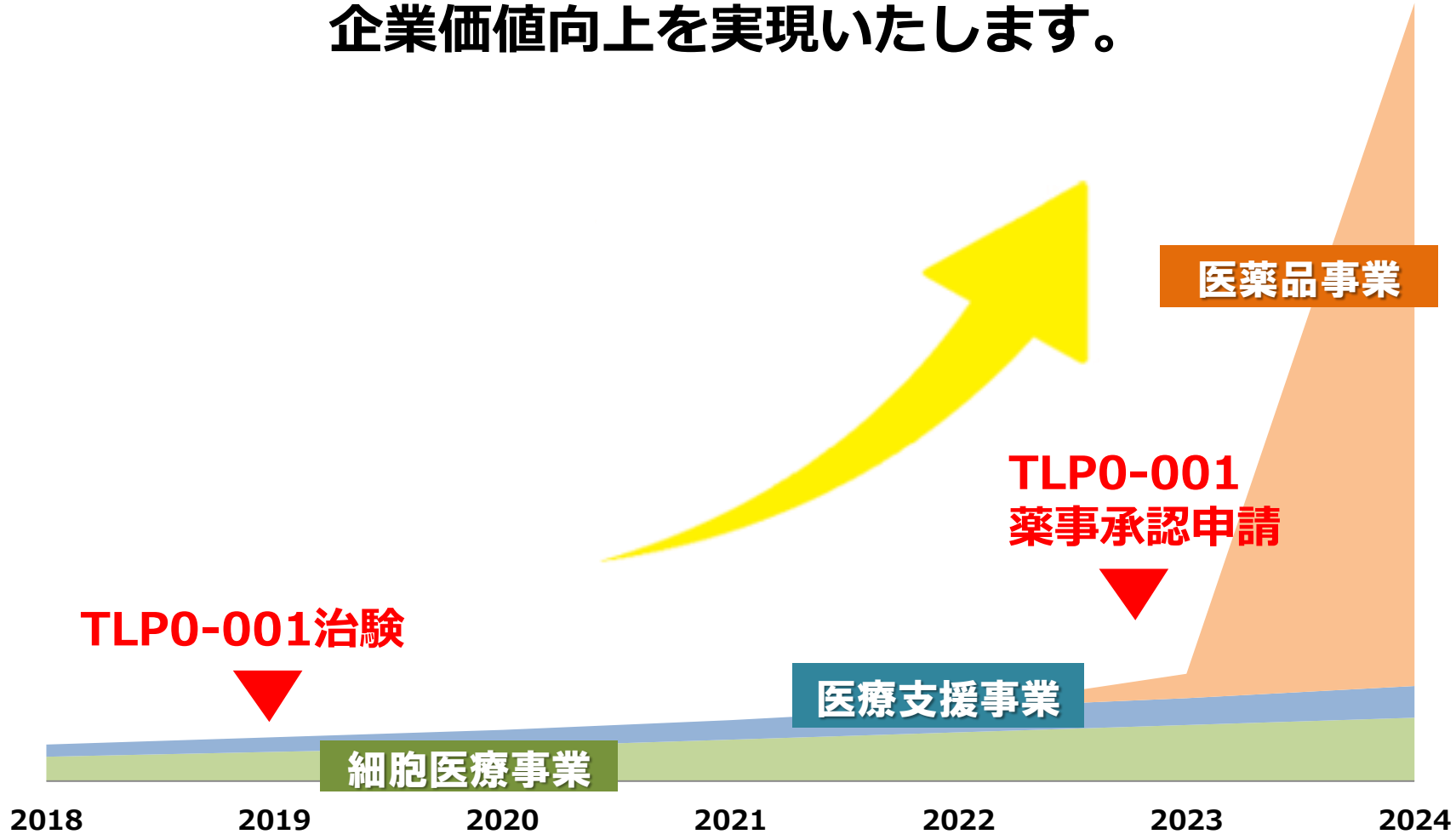
⇒　2018年度中に、治験は第Ⅱ/Ⅲ相（検証試験）に移行予定
全国複数の医療機関に治験実施施設が拡大し、
予定実施期間内での目標患者登録数の到達が図られます

⇒　治験製品の供給体制を強化し、安定供給に努めると共に
適切なコスト管理を継続いたします

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

テラグループの成長＝患者さん・家族への貢献

テラの免疫療法で患者さん・家族に貢献することで、
企業価値向上を実現いたします。



Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

INDEX

Ⅰ．2018年12月期TOPICS

Ⅱ．2018年12月期決算概況

Ⅲ．経営課題と今後の展望
・経営課題
・解決へ向けた戦略

Ⅳ．補足資料

Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

３つの事業領域

成長事業

医薬品事業

テラファーマ

2017年3月
医師主導治験開始

↓

承認取得・上市

・より広く、より多くの患者に細胞治療を届ける

収益事業

細胞医療事業

テラ

・最新の療法を保険外診療でいち早く患者に届ける
・海外患者の受け入れ

医療支援事業

タイタン

オールジーン

・高品質の細胞治療を提供するために必要な関連技術を提供

がん患者・家族にとって一番身近な企業になる

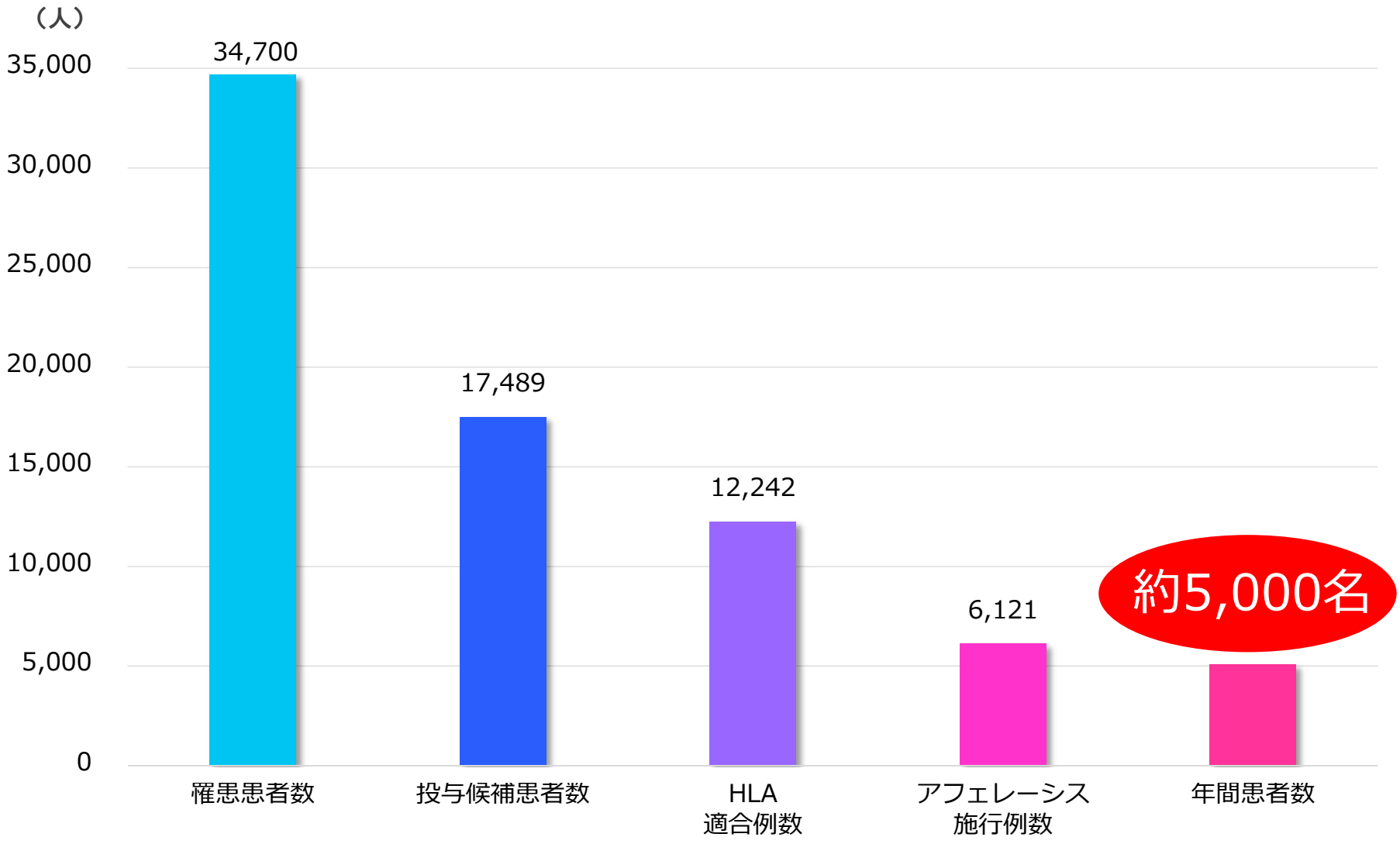
Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

テラグループの研究開発計画

	2017年	2018	2019	2020	2021	2022	・・・
医薬品事業	膵臓がん（TLP0-001）	医師主導治験			承認申請 上市		
	パイプラインの拡充（他がん種）						
	有望な成績が得られたものは、順次治験に進める						
細胞医療事業	アカデミアと連携し（計画中）、準備が整ったものから厚生労働省に申請						
	樹状細胞ワクチン療法の改良	・ネオアンチゲン樹状細胞ワクチン療法 ・新規ペプチドの活用、ほか					
	研究開発中、随時各医療機関に導入予定						
	予防的樹状細胞ワクチン療法	・再発予防、初発予防					
	研究開発中、随時各医療機関に導入予定						

Copyright 2017 tella Inc., All Rights Reserved

医薬品事業における想定マーケット（年間患者数）



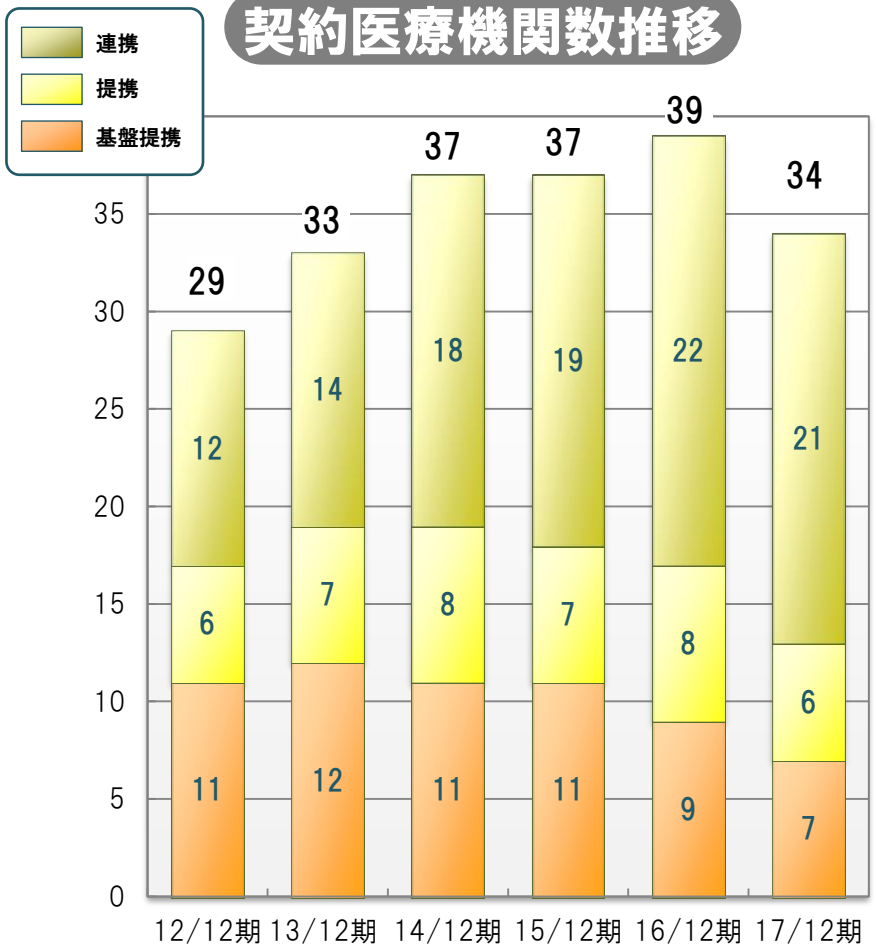
罹患患者数： 国立がん研究センターがん対策情報センター

Copyright 2017 tella Inc., All Rights Reserved

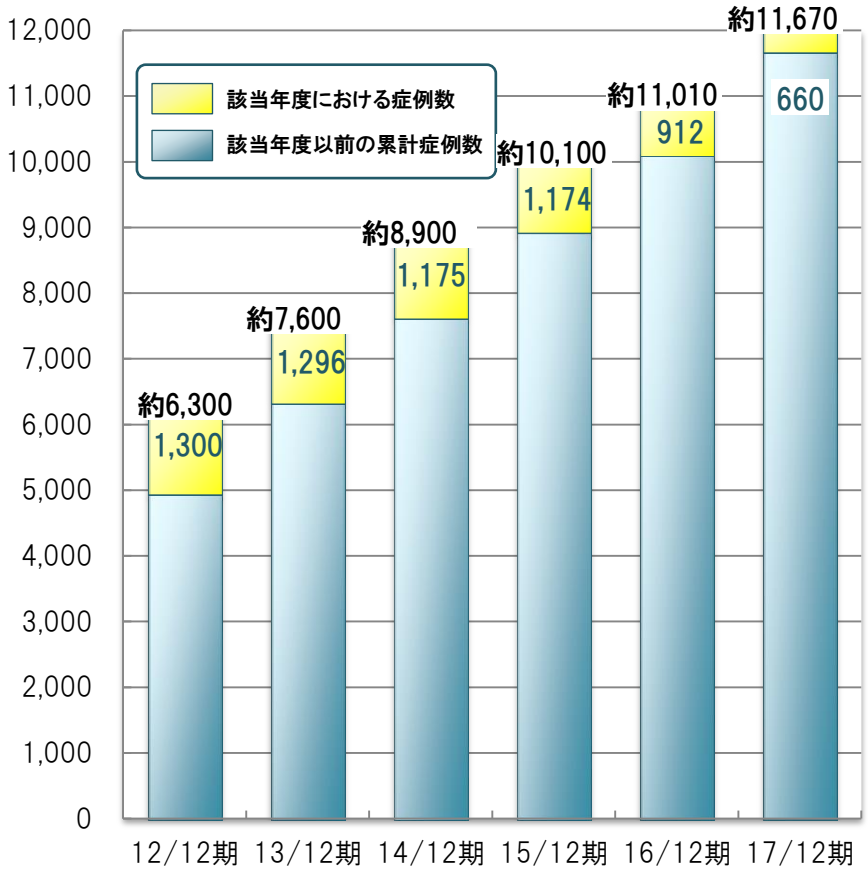
契約医療機関数、累計症例数

契約医療機関は全国に34ケ所、累計症例数は約11,670症例（2017年12月末）

契約医療機関数推移



累計症例数



Copyright 2018　tella Inc., All Rights Reserved

テラ株式会社

tella

ＩＲの問い合わせ先

IR担当

TEL: 03-5937-2111

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いします。本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。

JASDAQ

証券コード：2191